

令和 7 年度福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会事業 取組実施報告（6/26 時点）

(1) 双葉郡教育復興ビジョンにかかる協議・検討等

1. 双葉郡教育復興ビジョン推進協議会◇ 第 29 回

会議日：2025 年 7 月 3 日（木）13:30～15:30

（11:25～12:30 大熊町立学び舎ゆめの森授業参観・施設見学）

場所：大熊町立学び舎ゆめの森

議事内容：

- ・ 今年度の各取組実施状況について
- ・ 各町村教育委員会の現状と課題
- ・ 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校活動報告 等

◇ 第 30 回（予定）

会議日：2026 年 1 月～2 月開催予定

場所：双葉町立双葉南・北小学校、双葉中学校（いわき市）

2. 双葉郡地域学校協働本部 会議

目的：多様な主体との連携を図り、教育の充実、教育と地域復興の相乗効果を生み出す

構成：8 町村地域コーディネーター、8 町村小・中・義務教育学校およびふたば未来学園
高校、8 町村教育委員会を代表する者等

会議日：調整中

関連事項：

- ① 各町村および本部コーディネーター等による外部講師のコーディネート、外部施設訪問等を実施（通年（随時））
- ② 「双葉郡地域学校協働本部事業」紹介資料作成（予定）
目的：双葉郡地域学校協働本部の事業案内および事業報告を郡内各校で共有し、
 更なる連携した取組の充実に繋げる
内容：双葉郡地域学校協働本部概要紹介、各町村取組、各校実践事例等

3. 双葉地区中高連携協議会（年 1 回実施）

目的：双葉郡としての一体感を高め、生徒の主体性・協働性・創造性を育成する

構成：県教育庁代表職員、ふたば未来学園中学校・高等学校長および 8 町村立中学校長、
8 町村教育長等（協議会長：柳沼敏文 広野中学校長）

会議日：2025 年 12 月開催予定

4. 委員会連絡協議会（年 2 回実施）

目的：各委員会・取組間の情報共有、連携

構成：各委員会委員長および中高連携協議会長

会議日・場所・議事内容：

- ✧ 第 1 回 2025 年 5 月 7 日（水）10:00～11:00（オンライン開催）
 - ・ 今年度計画・推進体制の確認
 - ・ 各取組の情報共有（昨年度の成果・課題、今年度の概要等）
- ✧ 第 2 回 2026 年 2 月開催予定（オンライン開催）
 - ・ 各取組の成果・課題等共有
 - ・ 次年度に向けた意見交換
 - ・ 今年度計画・推進体制の確認

(2) 第 12 回双葉郡ふるさと創造学サミット

□ 趣旨

ふるさと創造学の取組を共有し、学びを通じた交流で、地域のつながりをつくる
（スローガン）

～伝えあい、つながって、広がる ふるさとふたばの学び～

町村や校種を越えて学びあい、多様な見方・考え方にふれることで視野を広げる

□ 体制：（サミット実行委員会）

実行委員長：石井智明 双葉南・北小学校長

委員：各町村小・中・義務教育学校、高校、特別支援学校、相双教育事務所より
1 名以上（計 21 名）

会議日：6 月 23 日（計 4 回実施予定）

□ 実施概要（予定）

日時：2025 年 11 月 29 日（土）9:30～未定

場所：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校

内容：郡内各小・中・義務教育学校、ふたば未来学園中学校・高等学校、ふたば支援
学校の児童生徒による、各校の「ふるさと創造学」の取組を共有し合う学び
あいセッション

(3) 第 8 回双葉郡小学校絆づくり交流会

□ 趣旨

- ・ ふたばの未来を見据えた、8 町村小学生による町村の垣根を越えた仲間づくり
- ・ 双葉郡内小学校・義務教育学校教職員の交流・情報交換

□ 体制：

① 絆づくり実行委員会

実行委員長：半杭千歩 富岡小学校長

委員：各町村小学校・義務教育学校、特別支援学校より 1 名以上（計 9 名）

会議日：5 月 29 日、6 月 24 日、（※以下予定）7 月 14 日（計 4 回実施予定）

② 絆づくり中高生実行委員会

委員：ふたば未来学園中学校・高等学校、なみえ創成中学校、川内小中学園の中高

生（7 名）

会議日：（※以下予定）7 月 5 日、7 月 19 日（計 2 回）

□ **実施概要（予定）**

日時：2025 年 7 月 29 日（火）9:30～13:10（開会式 10:00）

会場：大熊町立学び舎ゆめの森

対象：双葉郡 8 町村立小学校・義務教育学校児童（全学年対象）

内容：絆づくり交流活動

(4) 第 10 回双葉郡中高生交流会 FUTABA 1 DAY SUMMER SCHOOL

□ **趣旨**

（双葉郡中高連携の目的）

交流を通じ生徒たちが主体性・協働性・創造性を発揮するとともに、町村や世代の垣根をこえて双葉郡のつながりを感じる

実施目標：

✧ お互い共感したり認め合ったりしてつながりを感じる

✧ 普段の学校生活の中ではできない学びを体験し主体的に参加し、わくわくする

□ **体制（中高生交流会実行委員会）**

実行委員長：瀧本 基 ふたば未来学園副校長

委員：各町村中学校・義務教育学校・高校・特別支援学校より 1 名以上

（計 11 名）

会議日：6 月 4 日、（※以下予定）7 月 9 日、7 月 22 日（計 4 回実施予定）

□ **実施概要（予定）**

日時：2025 年 8 月 1 日（金）10:30～15:30

会場：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校

対象：双葉郡内中学校・義務教育学校、高校の生徒、双葉郡外の中学校・高校の生徒

内容：選択制参加型のワークショップ形含む活動

(5) カリキュラム検討・教員研修

1. ふるさと創造学教員研修会

□ **実施概要（予定）**

日時：2025 年 8 月 28 日（木）時間未定

会場：大熊町立学び舎ゆめの森

目的：8 町村が連携して進める「ふるさと創造学」の更なる充実、発展

内容：奈須正裕氏（上智大学総合人間科学部教育学科教授）による講演等

2. 教職員による双葉郡子供未来会議

□ **実施概要（予定）**

日時：2026 年 2 月頃開催予定

場所：未定

目的：双葉郡独自の魅力的な教育の更なる充実、発展および教職員の町村や校種を越えた交流・情報共有

3. **「ふるさと創造学 令和 7 年度・実践事例集」制作（予定）**

目的：双葉郡 8 町村が連携して行う「ふるさと創造学」の各校の取組の共有およびアーカイブ

内容：各校のふるさと創造学取組内容（テーマ、活動内容・手法、ねらい等を含む）

発行部数：900 部（予定）

配布対象：郡内教職員、関係者、他町村教育委員会等

発行日：2026 年 2 月（予定）

(6) ICT 活用推進・広報誌編集制作

□ **目的**

ICT 活用：

離れている双葉郡の学校同士をつなげ、子供たちへの教育効果を高める

広報誌制作：

広報誌制作双葉郡内各校の取組や子供たちの姿・思いを、教員や子供の視点を大切に地域内外へ取組を発信することで、ふたばの絆をつくとともに、表現・発信等のアクティブ・ラーニングにつなげる

□ **体制（ICT 活用・広報委員会）**

委員長：南郷市兵 学び舎ゆめの森校長

委員：各町村小・中・義務教育学校、高校より 1 名（計 17 名）

□ **取組概要（予定）**

- ICT 活用・広報委員会（開催日調整中）
- 先進地域視察（未定）
- 広報誌の各校学校ページの内容検討、素材準備等

□ **広報誌「ふたばの教育 Vol.16」概要**

号	2026 年春号（Vol.16）
発行	2026 年 2 月発行（予定）
内容	検討中
読者	双葉郡 8 町村の地域住民（各町村広報誌に同封し全戸へ発送）、各校保護者・双葉郡内教育関係者、一般等
発行部数	38,000 部（予定）

(7) ふたば生徒会連合

□ 目的

交流を通じ生徒たちが主体性・協働性・創造性を発揮するとともに、町村や世代の垣根をこえて双葉郡のつながりを感じられるようにする

□ 体制（ふたば生徒会連合担当委員会）

委員長：横田和典 葛尾中学校校長

委員：各町村中学校・義務教育学校、高校より 1 名（計 10 名）

□ 取組概要

➤ 担当委員会（教職員）

5 月 27 日、（※以下予定）7 月 15 日、11 月 11 日（年 4 回実施予定）

➤ 生徒活動（予定）

・ ふたばミーティング（ビデオ会議）

7 月 1 日、（※以下予定）7 月 7 日、7 月 23 日※対面会議
（計 8 回実施予定）

・ 中高生交流会 運営サポート

・ ふるさと創造学サミット 運営サポート

・ 広報誌「ふたばの教育 vol.16」生徒会連合ページ制作、校正協力 等

(8) その他

□ 東京書籍「新しい公民」・「新しい社会」の教科書掲載

「ふるさと創造学」については、東京書籍の「新しい公民」及び「新しい歴史」の令和 3 年度版教科書（中学生対象）に掲載されており、令和 7 年度発行版についても「新しい歴史」には継続して掲載されることになっている。



ともに、地域の人々の情報交換の場となっています。

●「ふるさと創造学」(福島県双葉郡)

「ふるさと創造学」は、「震災で子どもたちが得た経験を、生きる力に」との思いから、福島県双葉郡内の 8 町村の学校が取り組んでいる「総合的な学習の時間」の総称です。各町村の子どもたちは、東日本大震災にともなう復旧・復興に向けた地域の取り組みの経験を基に、ふるさとの将来に向けての提案を考え、ふるさとの人々や世帯になった避難地域の人々に元気を発信し続けています。



以上